

第4次町田市農業振興計画(改訂版) 進捗状況確認表(2023年度)

進捗状況: ◎…予定以上(111%以上) ○…予定通り(90~110%) △…遅れている(90%未満) ×…未着手

【資料1】

事業名		事業内容	実施主体	指標	2026年度 末目標値	2023年度末 実績見込	2023年度実施内容 (振り返り、現在の課題認識、今後の事業スケジュール等)	進捗評価
基本目標Ⅰ(意欲的農業者への支援)	①認定農業者・認定新規就農者事業	都市農業を将来に渡って担う農業者や新規就農者を認定する業務であり、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想で定められた目標を達成するための支援として、施設整備や研修会等を実施することで、農業者の生産意欲向上を図ります。	農業振興課	①認定農業者の新規認定数 ②認定新規就農者の新規認定数	①10名(2名/年) ②5名(1名/年)	①4名(2名/年) ②2名(1名/年)	①2023年度の認定農業者の新規認定数は2名で、累計の目標値を達成しました。 ②2023年度の認定新規就農者の新規認定数は1名で、累計の目標値を達成しました。 引き続き、農業後継者等への認定制度の周知や、認定農業者及び認定新規就農者が受けられる補助制度を継続的に実施することで、新規認定数の増加を図っていきます。	①○ ②○
	②農業振興補助事業	農業者が創意工夫を発揮し、経営の改善及び合理化を目指した事業に対し補助を行います。	農業振興課	認定農業者及び認定新規就農者の事業実施件数	40件(8件/年)	11件(6件/年)	12件の申請があり、選定の結果、認定農業者及び認定新規就農者への補助は6件で、目標値を達成できませんでした。(その他の農業者も含めると9件承認。) 2024年度実施分から、補助対象者を認定農業者と認定新規就農者とする補助要綱の改正を行い、認定農業者等に対する効果的な支援を行います。	△
	③都市農業施設整備事業	認定農業者等が収益性の高い農業経営を行う上で必要な施設整備支援を行うことで、経営力の向上、都市農地の保全及び都市農業が持つ多面的機能の更なる発揮を進めます。	農業振興課	実施主体数	6件(1件/年)	1件(1件/年)	農業経営の効率化を目的とした、デジタル機器で一元管理するトマト用の養液栽培施設の整備支援を行いました。累計2件とする目標値は達成できませんでした。 本施設を整備することで、市内産農産物の流通量増加、食育への貢献など、市内農業の活性化に関する効果が期待できます。今後は、この施設を参考事例として、本事業を活用した農業へのデジタル技術導入が進むよう努めます。	△
	④新規就農者定着支援事業	認定新規就農者が、就農に必要な施設整備や機械導入等を支援することで、早期に農業経営を安定させることを目指します。	農業振興課	実施主体数	5件(1件/年)	1件(0件/年)	2023年度は申請がなかったため、事業の実施には至らず、目標値を達成できませんでした。 引き続き、本事業の活用に向けて、相談に応じて調整を図っていきます。	△
	⑤農業次世代人材投資事業	次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、就農直後の経営確立を支援する資金を交付し、市内での農業への定着を図ります。	農業振興課	新規交付対象者数	5名(1名/年)	0名(0名/年)	2023年度から「新規就農者育成総合対策経営開始資金」に名称を変えて運用を行いました。 新規申請の相談が1件ありましたが、申請に至らず、目標値を達成できませんでした。 引き続き、本事業の活用に向けて、相談に応じて調整を図っていきます。	△
(2)新たな担い手の育成・支援	①農業研修事業	営農技術のみならず、就農に必要な農業経営のスキルや、農地貸借等の農地に関する法知識も習得できるようなカリキュラムを新たに整備することで、就農希望者の育成に特化した研修事業を実施し、確実な新規就農者の輩出を目指します。	農業振興課	新規就農した人数	2022年度～2024年度 3名(1名/年) 2025年度～2026年度 4名(2名/年)	2名(0名/年)	13期生11名、14期生13名が受講しました。研修修了年次である13期生11名のうち、6名は新規就農の意向がありましたが、農地貸借が成立せず、新規就農できた研修生がいなかったため、目標値を達成することができませんでした。 2024年度からは、農業経営に必要な知識の習得を加えた新たなカリキュラムに基づいて、農業研修事業を実施します。また、修了生向けの農地貸借制度を検討し、より多くの新規就農者の輩出を目指します。	△
	②援農ボランティア育成事業	高齢化、後継者不足等の理由により担い手が不足している農家を支援するため、野菜の収穫等の農作業を行う援農ボランティアを育成します。	農業振興課	援農ボランティア修了者数	40名(8名/年)	22名(9名/年)	2023年度は参加した9名全員が修了し、目標値を予定以上に達成しました。 引き続き、研修継続に向けて実施団体を支援していきます。	◎
	③農業のデジタル化の推進	農業者の生産現場や流通現場において、スマートフォン等電子機器を用いた農業データの活用や、インターネットを活用した情報発信・販路拡大への支援を行うとともに、行政手続のデジタル化を推進することで、効率的な都市型農業経営の実現を目指します。	農業振興課	デジタル技術の導入	導入	デジタル技術の導入	都市農業振興施設整備事業を活用し、デジタル機器で一元管理する施設整備補助を行ったほか、農業振興事業補助金では、ロボット草刈り機の導入補助も行いました。 農業振興事業補助金については、さらに市内農家のデジタル技術導入促進のため、2024年度実施分からスマート農業にかかる経費を補助対象に加えています。 引き続き、デジタル技術の導入実績や事業の周知を図るなど、市内農業へのデジタル化の普及に努め、効率的な都市型農業経営へ取り組む農業者の増加を目指します。	○
(3)安全で安心な生産支援	①堆肥流通促進事業	農産物を生産する市内農業者等に対し、市内畜産農家が生産する堆肥を購入する経費を補助することにより、市内産堆肥の流通促進を図ります。安心・安全で環境に優しい農産物の生産に取り組む農業者を中心に、事業の活用を促していきます。	農業振興課	市内堆肥の取引量	915t(183t/年)	270t(127t/年)	農産物を生産する農業者に対し、市内畜産農家が生産する堆肥の購入経費を補助しました。チラシ配布等で事業の周知を図りましたが、目標値を達成できませんでした。2022年度と比較して、2023年度の補助申請件数が減少しています。今後は、認定農業者の総会等で本事業を案内するなど、年度当初から周知を行い、安心安全で環境に優しい農産物の生産に取り組む農家への支援を継続していきます。	△
	②農産物獣害防止対策事業	増加する加害獣による農作物への被害を防止するため、関係団体と連携して農地等へ箱罠やくくり罠を設置し、加害獣の捕獲・駆除を行い、被害の減少を図ります。	農業振興課	被害対象獣の捕獲数	410頭(82頭/年)	159頭(60頭/年)	大型獣に関しては町田猟友会に、小型獣に関しては町田市農業協同組合に、捕獲及び処分に至る駆除一式の業務を委託しました。環境変化により、2023年度の捕獲数は60頭でしたが、累計すると目標値を概ね達成しました。 引き続き、関係団体と連携しながら本事業を継続して獣害対策を施行していくことで、農作物の被害減少に努めます。	○

第4次町田市農業振興計画(改訂版) 進捗状況確認表(2023年度)

進捗状況: ◎...予定以上(111%以上) ○...予定通り(90~110%) △...遅れている(90%未満) ×...未着手

【資料1】

事業名		事業内容	実施主体	指標	2026年度 末目標値	2023年度末 実績見込	2023年度実施内容 (振り返り、現在の課題認識、今後の事業スケジュール等)	進捗評価	
基本目標Ⅱ(都市農地の保全と活用による多面的機能の発揮)	(1) 遊休農地の解消	①農地再生事業	農業振興課 農業委員会	農地整備面積	1ha(10,000㎡、2026年度累計)	0.2ha(2,000㎡) (700㎡/年)	市が所有する未活用農地について、700㎡を整備・再生し、目標値を達成しました。農業研修修了生の新規就農の用途としても活用していきます。	○	
		②農地あっせん事業	農業振興課 農業委員会	新規農地あっせん成立件数	15件(3件/年)	5件(3件/年)	借り手を探している農地5件を2024年1月に市内の担い手に情報公開した結果、3件のマッチングが成立しましたが、累計すると目標値を達成できませんでした。今後も遊休農地解消のため、引き続き農地貸借のマッチングを実施していきます。	△	
		③農地パトロール事業	農業委員会	農地の利用状況が改善した割合	100%	100%	市内農地16箇所(約16,000㎡)のうち、7箇所について遊休農地であることを確認しました。この7箇所について肥培管理指導等を行った結果、すべて所有者が自ら耕作して農地として改善され、目標値を達成しました。引き続き、農地パトロールを実施し、農地の利用状況改善を図ります。	○	
	(2) 市街化区域の農地の維持・活用	①都市農地貸借事業	2018年9月に施行された「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」に基づき、都市農地の保全及び活用を推進するため、町田市農業協同組合と協力して生産緑地の貸借支援を実施します。	農業振興課 町田市農業協同組合	生産緑地貸借新規成立件数	15件(3件/年)	3件(1件/年)	町田市農業協同組合と連携し、傷病等の理由で生産緑地での耕作の継続が困難な土地所有者に対して借り手とのマッチング支援を行った結果、1件の貸借契約が成立しましたが、目標値を達成できませんでした。農地を貸したい方からの相談が増えていることから、今後は借り手の登録数が増やせるよう制度の見直しを行うなど、引き続き貸借支援に努めます。	△
		(3) 農地が持つ多面的機能の発揮	①災害時協力農地・井戸協定事業	防災課	①災害時協力農地登録面積 ②災害時協力井戸件数	協定継続	①117,538.51㎡ ②267件	災害時協力農地の協定、災害時協力井戸の協定数に変動があったものの、概ね協定を継続するという目標は達成できました。引き続き、両協定の継続に向けて、市ホームページ等で周知を図っていきます。併せて、協力井戸の水質検査や防災マップ及び防災WEBポータルに掲載などを通じて、協定継続に努めるとともに、地域防災力の向上に寄与するよう取り組みます。	○
		②農福連携事業	農業と福祉の分野が連携し、農業分野での活動を支援することで、労働意欲の向上へ寄与するとともに、地域の農業者等とのコミュニティ形成を支援し、生きがいつくりの場を生み出します。	農業振興課	事業化	事業化	試験実施	三輪町にある約1,600㎡の農地(田んぼ)について、農地所有者及び市内で活動するNPO法人と調整を行った結果、2023年4月1日から貸借が成立しました。当該農地では、NPO法人で働く障がい者が農作業を行ったほか、NPO法人が市民参加型の米作り体験事業を実施するなど、試験的取組を行いました。今後は、本取組をふまえて事業化を進めます。また、NPO法人の状況に合わせた様々な農福連携の実現に向けた事業スキームの確立についての検討を行います。	◎

第4次町田市農業振興計画(改訂版) 進捗状況確認表(2023年度)

進捗状況: ◎...予定以上(111%以上) ○...予定通り(90~110%) △...遅れている(90%未満) ×...未着手

【資料1】

事業名		事業内容	実施主体	指標	2026年度 末目標値	2023年度末 実績見込	2023年度実施内容 (振り返り、現在の課題認識、今後の事業スケジュール等)	進捗評価	
基本目標Ⅲ (立地を活かした地産地消の推進)	(1) ブランド力の向上	①まち☆ベジ推進事業	町田産農産物のシンボルマークである『まち☆ベジマーク』をPRすることで、安心・安全・高鮮度である市内産農産物の周知を図るとともに、ウェブ・SNS等を活用した農業情報の発信や、子ども向け農業情報誌の配布、農業体験等を通じて、『まち☆ベジマーク』の認知度の向上を図ります。 また、より多くの市民にまち☆ベジを知ってもらい、食べてもらう機会を設けるため、市内産農産物を使う飲食店や加工品販売店を『まち☆ベジグルメ店』として登録し、登録店を増やします。	農業振興課	①まち☆ベジマークの認知度 ②まち☆ベジグルメ店新規登録店舗数	①30.0% ⇒50.0% ※目標値を上方修正 (市内小・中学校へのアンケート実施) ②10店舗 (2店舗/年)	①37% ②7店舗(4店舗/年)	①まち☆ベジ認知度調査アンケートを市内の小中学生及び保護者に行った結果、「まち☆ベジを知っている」と回答した人が37%、「知らない」と回答した人が63%で、目標値を達成できませんでした。(前回実施比7%減) 認知度向上のための事業として、市内農業情報を掲載しているまち☆ベジBOOKを市内各所で配布したほか、夏・秋・冬の3回、計6か月、市内を走行するバスやタクシー、ターミナルプラザや子どもセンター等のデジタルサイネージでPR動画等を配信しました。また、市内の小中学生を対象とした「町田市立小・中学校朝食レシピコンテスト」では、町田産の旬の野菜を取り入れたレシピを考案してもらうことで、まち☆ベジへの理解を深めるきっかけとなりました。 引き続き、様々な媒体を活用するとともに、アグリハウスや小中学校、子ども関連施設等において積極的なPRを行うことで、まち☆ベジ及びまち☆ベジマークの認知度向上を図ります。 ②2023年度は新たに4店舗の登録があり、目標値を予定以上に達成しました。 引き続き、市ホームページやまち☆ベジBOOK等でまち☆ベジグルメ店をPRすることにより、新規登録店舗数の増加を図ります。	①△ ②◎
	(2) 市内産農産物の流通促進	①学校給食食材供給事業(小学校)	小学校と農業者をつなぎ、給食への安心安全な市内産農産物の供給量の増加と食育の推進を図ります。	農業振興課	補助事業の継続実施	継続実施	継続実施	保健給食課と連携し、小学校給食への地場産農産物の供給を通年実施しました。出荷事業者のうち、申請のあった約21名の市内農家及び町田市農業協同組合に対して、補助事業を継続実施しました。 また、7月と12月には、市内全小学校(42校)で町田産の野菜やお米を使用したまち☆ベジ給食を提供し、食育の推進を図りました。 引き続き、小学校給食への食材供給補助を継続する予定です。	○
	(2) 市内産農産物の流通促進	②学校給食食材供給事業(中学校)	2024年度からの中学校全員給食・中学校給食センター方式の導入に伴い、市内産農産物の供給方法について検討し、活用を進めます。 (市内3ヶ所に整備)	保健給食課	市内産農産物の供給開始	2024年度1ヶ所目供給開始 2025年度2、3ヶ所目供給開始	供給方法の検討	2022年度に引き続き、町田市農業協同組合と2024年度からの中学校全員給食・中学校給食センター方式における市内産農産物の供給量や供給方法(市からの作付け依頼の方法等)を検討しました。検討結果に基づき、中学校給食センターで使用予定の市内産農産物の作付けに関する覚書を取り交わしました。 今後は、センター稼働に向けて中学校給食運営事業者と市内農産物の活用について調整を行います。	○
(2) 市内産農産物の流通促進	③市内産農産物流通促進事業	市内産農産物の地産地消推進及び市民の利便性向上のために、既存の生鮮食品ECプラットフォームを拡大し、安定的な農産物の域内流通促進を図ります。また、多様な販売チャネルを比較検討し、導入に向けた支援を行います。	農業振興課	生鮮宅配ボックスの設置箇所 ⇒子育て世帯のうち「まち☆ベジ」を購入したことがある人の割合	30箇所 (2026年度までの累計) ⇒44% (前年比3%増/年、2026年度時点)	55% (2023年度目標値: 35%)	町田市農業協同組合及びクックパッド(株)と連携協定を締結し、農産物の域内流通促進を図っていましたが、クックパッド(株)の事業縮小に伴い連携協定が解消されたため、生鮮宅配ボックスの設置を継続することができなくなりました。そのため、2023年度は、特に子育て世帯に市内の直売所へ継続的に来ていただく試験的取組として、町田市農業協同組合と連携し、アグリハウス鶴川や子どもセンターつるっこで子ども向けの企画を実施し、直売所や市内産農産物をPRしました。 今後は、特定のエリアから取組を本格的に開始し、順次市内全域で展開します。 また、特に買い物時間が取れない共働き世帯や子育て世帯をターゲットとして、鮮度の高い市内産農産物を購入しやすい販売方法を検討します。	◎	

第4次町田市農業振興計画(改訂版) 進捗状況確認表(2023年度)

進捗状況: ◎...予定以上(111%以上) ○...予定通り(90~110%) △...遅れている(90%未満) ×...未着手

【資料1】

事業名	事業内容	実施主体	指標	2026年度 末目標値	2023年度末 実績見込	2023年度実施内容 (振り回り、現在の課題認識、今後の事業スケジュール等)	進捗評価					
基本目標Ⅳ(多様な交流機会をきっかけとした市民の農に対する魅力の向上)	①薬師池公園四季彩の杜事業	四季彩の杜西園直売所を広くPRすることで、市民が地場産農産物を購入出来る機会を増やすとともに、フットパス等の歩行系レクリエーションネットワークや体験農園を活用し、農にふれあう機会を創出します。	農業振興課	農にふれあう機会の創出	継続実施	継続実施	2022年度末に発行した「まち☆ベジBOOK」を、市関係施設や小学校、農業祭等のイベントなどで引き続き配布することで、西園直売所やファーマーズマーケット、ふるさと農具館などの四季彩の杜内の農に関わる施設やイベントを巡る散歩コースなど、市民が気軽に農にふれあう機会をPRしました。	○				
		公園緑地課	継続実施			西園では、直売所にて地元農家の農作物や園内の畑で採れた作物を販売しているほか、毎月第3土曜日に開催しているLOCALファーマーズマーケットでは地元の農家や飲食事業者等が出店しています。また、季節毎にじゃがいもやブルーベリー、大根等の収穫体験ができる農園を利用したワークショップの開催や、プロの料理人が作る地場産農産物を使った料理を提供するなど、様々な事業を実施しました。						
		観光まちづくり課	継続実施			9月に「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画~Ver.2~」を策定しました。計画では、景観作物園の拡張と農ある風景の演出、農体験の提供を重点的な取組として決めました。町田薬師池公園四季彩の杜を巡る複数のコースを掲載した「町田薬師池公園四季彩の杜 お散歩MAP」を市内各所で配布しました。						
	②農業体験事業	市民農園、体験農園及び収穫体験農園(観光農園)や農家開設型市民農園等、さまざまな農業体験を市民にPRし、利用者募集などの広報を行います。	農業振興課	農業体験事業の実施	37園	37園	本町田に民営の市民農園(都市農地貸借円滑化法によるもの)が新たに開設され、累計37園となり、目標値を達成しました。引き続き、民営の市民農園開設を促進するため、農地所有者に対して市ホームページやチラシで市民農園の開設が農地活用の一つの手法としてあることを周知します。	○				
	③食育体験事業	農業と商業の協働による食育の取組を行います。	農業振興課 保健予防課	食育体験の実施	実施	実施	農業と商業のイベントであるキラリ☆まちだ祭(農業祭)において、学生団体による「野菜ガチャ」の企画を実施しました。様々な野菜が出てくる大きなガチャガチャを行った後は、自分が引いた野菜を使用したレシピを考えて用紙に記入・掲出していただき、手に入れた野菜の活用を考案するという食育体験を行いました。	○				
						実施	7月26日に「食育体験事業」として、市内の3歳以上~小中学生及びその保護者を対象にブルーベリー狩り、町田産農作物を使用したランチ・市内事業者のミルクジェラート喫食を行いました。本事業では、生産流通から喫食の一連を体験することで、食に対する感謝の心を育むとともに、相原地区の農業や商業について、クイズを通して理解促進を図りました。2024年度も年1回の開催を予定しています。					
	④七国山景観作物協定事業(四季彩の杜北園事業)	来訪者に農の風景を楽しんでもらえるよう地元の農家組合と協定を結び、七国山地区に1年を通して景観作物(そば・菜の花・ひまわり等)を栽培します。収穫物は加工・販売を行います。薬師池公園四季彩の杜北園開園の後にも引き続き美しい農の風景を維持し、多くの市民が味わえるような加工品等を提供します。	農業振興課	1年を通して景観作物を栽培し、農の風景を維持する	事業継続	事業継続	菜の花、ひまわり、そばの景観作物の栽培を継続して行いました。さらに、菜の花が開花した後にできる菜種を活用し、毎月1回、ふるさと農具館でなたね油しぼりの実演・販売を行いました。また、そばの花が開花した後にできるそばの実、七国山そば・そば粉としてふるさと農具館で販売したほか、新たな試みとしてそば餅の販売や『そばの実の収穫体験』を実施しました。今後も風景を楽しむだけでなく、食や農の体験等でより多くの市民が農の風景を楽しめる機会を創出します。	○				
	①農業祭事業	農業者の生産意欲の高揚と、都市農業の重要性の認識と理解を深めることなどを目的に農業祭を実施し、市の農業を積極的にPRするとともに、商工業者との連携を通して農業の活性化に繋がります。	農業振興課	来場者数	20,000人	8,000人	例年実施している農産物即売会や品評会、農業関係者等によるブース出店を実施したほか、町田市農業協同組合や子どもセンターまあち等と連携し、新たな試みとして子育て世帯が農業祭を楽しめるような子ども向けの企画を実施しました。その結果、昨年度から約900人増の8,000人の来場がありました。目標値を達成できませんでしたが、今後も、特に子育て世帯など多くの方に来場していただけるような企画を実施していきます。	△				
						②ふるさと農具館事業	市の農業の歴史及び農家の生活様式を紹介し、市民の農業に関する知識の普及と、関心の向上を図る施設として活用します。併せて、市内小学生の社会科見学の場として活用することで、農業をより身近に感じてもらう機会を提供します。また、町田薬師池公園四季彩の杜の計画に合わせて、施設の在り方を検討します。	年間入館者数	22,099人(前年比10%増、2026年度時点)	(2023年度目標値: 16,604人) 実績: 16,758人	農具の展示や社会科見学の受け入れだけでなく、春・夏・秋と四季彩の杜内にある他の施設と連携したイベントを実施しました。さらに、新たな試みとして、七国山そば粉を使ったそば餅の販売や『そばの実の収穫体験』を実施したことで、16,758人の来館があり、目標値を達成しました。引き続き、社会科見学の受け入れやイベントの実施をすることで、年間入館者数の増加を図ります。また、町田薬師池公園四季彩の杜の計画の進捗に合わせて、施設の在り方検討を進めていきます。	○
						③七国山ファーマーズセンター事業	自然や農業とふれあうことのできる拠点施設として活用します。また、町田薬師池公園四季彩の杜の計画に合わせて、施設の在り方を検討します。	農業振興課	年間入館者数	8,234人(前年比10%増、2026年度時点)	(2023年度目標値: 6,186人) 実績: 5,921人	夏野菜苗の植え付け講習会やコスモスの摘み取り体験といった、季節に合ったイベントを実施しました。また、春・夏・秋と四季彩の杜内にある他の施設と連携したイベントを実施しましたが、5,921人の来館となり、目標値を達成できませんでしたが、引き続き、イベントの実施などにより、年間入館者数の増加を図ります。また、町田薬師池公園四季彩の杜の計画の進捗に合わせて、施設の在り方検討を進めていきます。